

- ・眠そうにしていたことがあるが、学校で熟睡してしまうほどのことはない。
- ・本人から休みたいカードの要求があるときは、タイマー(5分)をセットし、机に頭を伏せて休憩をとる

- ・通学のバスでは登校時寝ていることがあるが、教室で寝てしまうことはない。
- ・宿泊学習ではなるべく、静かにし気持ちを高ぶらせない様にした。また、人が少ない場所に移動し気持ちを落ち着かせたりした。

学校:ある程度の学校生活(活動量)をみながらほどよい心身の疲れ(ふれあい体操、揺れの体験(パラシュート、Gボール、トランポリン)、友達と楽しい行動、学習、体育、音等)
 家庭:学童での保育→入浴、食事、睡眠への努力
 宿泊:静かに、まっ暗な環境で寝ました。(寝るまで活動の調整)

お家の方の努力で、現在は生活リズムがきちんとできています。宿泊学習でもしっかり睡眠できました。

学校ではあくびが多くなるぐらいで、特に目立った様子はみられない。家庭での配慮がなされている。宿泊学習は来年度はじめて行う。

1泊の時はできるだけ自然睡眠を試みる。睡眠導入剤を持って行ってはいる(効果なし)

宿泊学習では雰囲気が変わることで興奮して眠らない。家族で旅行に行っても同様。校外宿泊学習では、ホテルの雰囲気に食事もとれず、自家中毒のようになり、嘔吐が続いた。睡眠はとれたが、食欲は家に戻るまで出なかった。主治医とも相談中。精神安定剤等も検討している。家庭への寝る部屋を変えてみることや旅行に行くことなどを提案している。

・宿泊学習では、なかなか寝ない。5年までは、年1回。泣いたり奇声をあげたりして担任は一睡もできなかった。6年になると2回の宿泊。1回目は5年までと同じように泣いたり奇声をあげていた。関係がとれるようになった10月の修学旅行では、担任もなれたので、先に寝たふりをした。本児が関わってきても無視を続けるうちに、やっとあきらめて1時間と少しの時間だが、寝てくれた。

・寝不足などの状況を連作帳や睡眠チェック表で連絡をとりあっています。寝不足との連絡がありましたが、学校では元気に過ごしていることが多いです。疲れている様子が見られた時には、昼休みに保健室で一休みさせたことが2回ほどありました。また、活動を止めて机に伏せて寝てもいいよと声かけしましたが、ほとんど寝入ることはありませんでした。
 ・宿泊学習時では、事前に用意した誘眠剤を使用しました。それでも、なかなか寝付かず、午前2時頃に寝息を立て、朝は起こされて起きる状態を見せていました

・宿泊学習(2泊3日)の際には家庭と現地から連絡をとりながら、睡眠導入剤の飲ませ方(飲ませるタイミングなど)を初日と2日目で調節したり、希少から就寝時間まで日中の行動や宿泊先の中での遊びを通して、からだを動かし、疲れさせるように心掛けました。初日、2日目ともに家庭と変わらぬ睡眠時間を確保することが出来ました。

睡眠障害・・・そのまま、寝かせる。あるいは、支援学級内のたたみの部屋で寝かせる。
 宿泊学習・・・教員と介助者かの間で寝かせた。睡眠導入剤は持参したが使わなかった。昼間たくさん歩いて疲れがあったようだ。

睡眠障害はない。宿泊では、興奮して眠れなかったが、布団から出ることはなかった。排泄はうながされないと自分からはなかなか行かないので注意、必要。本当に生きたい時はサインがでるが、間隔が長い。

取り組みませんでした。宿泊学習は、1泊だったので、全く眠らない状態で2日目も過ごしました。寝ていないことを意識して支援はしました。

特になし、家庭で生活リズムについて、気をつけていただいているため、学校では問題となっていない。

以前はあったが、現在成長と共に家庭の努力によってない。学校でも生活のリズムを調えるために活動の時間とリラックスできる時間のメリハリをつけている。本児は友達や教員が大好きで学校では自分から楽しいことを見つけ、積極的に活動して、昼夜のリズムをしっかりとれるようになってきている。

・宿泊学習：4年次の校内宿泊学習では、初めての宿泊学習でいつも一緒に学習する友達や教員との宿泊であり、子ども達皆、興奮することは予想されていたので、1日のスケジュールにゆとりをもたせ、また普段時間が制限されてできないプール学習をゆったりと行った。5年次の校外宿泊学習では初めての場所での宿泊で食事・お風呂・宿泊部屋、全てが子ども達には緊張し興奮すると予想されたので、前回の校内宿泊学習の経験を活かしてゆとりをもったスケジュールでゆったりとした時間として散策を入れた。両宿泊学習とも、しっかり睡眠もとれ、楽しく学習できた。6年次の修学旅行では移動と活動時間も増えているので気持ちの高まりをコントロールすることが課題となる。

今のところ睡眠障害は出ておらず、宿泊学習も未実施の為、今後の課題。

宿泊学習

・初めてのお泊まりに興奮し、消灯時間になっても全く寝る様子はない。
・声をあげているので、別室に移る。(他の児童の就寝を妨害することが予想できたので、一部屋余計に準備しておいた部屋。)
・電気を消して布団に入るが、教師が寝たふりをするとたいたり声をかけてきたりして、教師を起こした。(1:50就寝4:00起床)

修学旅行

・2回目のお泊まりで慣れたこともあって、前回より早めに就寝(PM11:00就寝、5:30起床)
・ベッドだったこともあって教師との距離があり、教師のことをたたいて起こすことができなかったこともある。
2回とも睡眠時間が足りていなくても翌日の活動には全く支障がなく、元気そのものであった。帰宅してからはぐっすり寝て、生活リズムをすぐに取り戻していった。学校としては、他の児童の迷惑にならないよう別室を用意する必要があった。

学校での宿泊経験は2年間で2回。(中2の公民館での宿泊学習、中3に修学旅行(USJオフィシャルホテル))であり、夜興奮して寝ることができない様子が、見受けられた。しかし、疲れがたまると眠たくなるので、すぐにホテルに戻る。ベッドのある救護室を用意しておくなどの 対応をおこなった。USJでは2日目途中でホテルに戻り、夕方まで休んだ。(最もUSJから近いホテルを選んだ)

①睡眠障害については、日頃から家庭で服薬している為、大きな問題はないが、睡眠不足の時は総じて、イライラしているし、トラブルも多くなっている。家庭からの連絡帳で睡眠不足の旨が伝えていただけているので、その日は、本人にあまり無理をさせないように配慮している。調子が悪い時や、興奮状態の時は、目を見ればすぐ見分けがつくので、その様子により、大人の対応にも変化をつけている。

②宿泊学習は未実施。

・睡眠障害が出ている時も、学校ではそのまま授業に参加させている。
・宿泊学習では、睡眠の薬を寝る前に飲ませたり、活動を十分にさせて就寝させる。

眠そうな時は歩いて生活のリズムを戻す様にした。宿泊学習では周りの音がきになって寝なかったのが課題である。寝ない時教師に近づいてきてかまってほしい様子を見せたが、寝たふりをして児童があきらめて寝るのを待った。

・睡眠障害が出た時は怪我のないように注意している。
・保護者が体調に合わせて登校を遅らせてくれています。
・プレイルームにて、ハンモック、トランポリン、スクータボード等に乗って覚醒させる。

一時期、学校で眠たそうで、授業中眠ってしまうことがあったが、薬の調整等で現在は眠くなり事無く、学習できている。宿泊学習には、まだ取り組んでいません。来年度から始まります。

<p>中学部での宿泊学習は今年度6月に実施予定。</p>
<p>今のところ睡眠に関する問題点なし。</p>
<p>今までのところなし。 宿泊学習は平成21年度4年生で初めて取り組む為全てこれからです。今までには、いろんな宿泊経験の依頼をしていたのが、(普段と違う部屋でねるなども含めて)祖父母宅以外の経験拡大はできていないのが現状。</p>
<p>軽い睡眠不足の時にはのんびりとゆっくりの活動をするよう心がけました。宿泊学習については、来年度6月頃の予定がありますが、特にまだ考えてはいません。</p>
<p>・4年生の宿泊学習時には、初めての宿泊行事であったこと、前日に脳波検査があつて、眼剤を服用したことなどの影響もあり、朝まで眠れませんでした。(ご家庭ではそういった場合は、メラトニンを服用することもあるようです)。それ以外、睡眠障害が学校での生活で問題になるようなことはありません。本児の場合、学校での活動を活発にすることで自然な入眠につながると思います。</p>
<p>宿泊学習等ではなかなかすぐに眠ることができませんでしたが、小1～6年間また寄宿舎利用等により修学旅行では布団で静かに休んでることができました。(眠りは浅いです)</p>
<p>学校でもう眠るかと思うようにうつらうつらとしている事は、ありますが、寝てしまったことは数分のみで一度だけです。おうちからの連絡帳に「朝方ずっと起きていました」というような記述があつた時も(勿論体調等見ながらですが)学校ではしっかりと活動を確保した方がその晩～朝まできちんと寝てくれるようです。毎日学校では2回に分けて合計1Kmから1.5Kmの歩行訓練を行っています。一泊二日の宿泊学小雨を2回経験しています。本年度はUSJ園内で一日中、歩行も含めハードな乗り物に乗ったり、広い会場の一番下まで長い階段を降りたりしてアクティブに活動させましたが、朝方までまどろともせず、遊んでいました。朝方個室(和室)の「何もない殺風景な暗い部屋」に移動したのが良かったのか、5～9時まで寝ました(急に)。</p>
<p>・疲れをためないように休息日を体調にあわせてとっています。 ・生活リズムは難しいですが、登校すれば昼間眠ることはないので、十分活動して、夜、眠れるようにしています。 ・宿泊学習では、眠くなるまで車椅子で散歩したり、車椅子のまま遊んだりしています。眠くなってから布団に入れると眠れます。</p>
<p>宿泊学習は、体調を崩すこともなく、友達と楽しむことができた。睡眠も問題なかった。</p>
<p>・宿泊学習の時は、やはり一日目に興奮してしまい眠れないことが多かったです。私が引率をした時には、眠れないことは仕方ないにしても、体力的に疲労してしまうことだけでも避けるように注意しました。そこで、私が行った具体的な方法は以下の通りです。 ・片手を生徒の胸からお腹のあたりにベルトの様に伸ばして置き、少し重みを感じさせる(決して押さえつけることはしません。添い寝して手を置く程度です) ・もう一方の手は目隠しをするように手の平で軽く目を覆います。人間は眠れない時でも、布団の中に入り、目を閉じてジッとしているだけで睡眠に近い効果を得ることが出来るので、そういう状態を作ることが出来るように努めました。また、そのことで「先生は起きている！」と生徒が感じてしまうと遊びになってしまうこともあるので、自分も寝たふりをしながら「寝ぞうが悪くて、たまたまそんな状態になっている」というように行いました。このことが直接的に効果があったどうかは正直分かりませんが、一日目の夜はほとんど寝ていなくても、二日目の活動中に眠ってしまうことはなく、二日目の夜には睡眠を取ることが出来ました。</p>

この一年、数回睡眠不足はあったが、服薬のおかげか睡眠障害から来る色々な問題は学校では殆ど起こらなかった。宿泊学習もまだ実施されていないので、実査にどうするかは未定だが、保護者とよく連絡を取り合って事を進めていきたいと思う。特に次年度の宿泊学習は6月という暑い時期に実施されるので注意が必要である。

学校で眠くなったりすることはなく、取り組みはしていない。宿泊学習の時も、それ以前に宿泊体験を重ねてきており、特別な工夫を必要とはしなかった。

- ・可能な限り、声掛けや場所を移動するなどし覚醒を促した。眠たい日が続くようなら保護者に寝てもいいかどうか連絡帳を通して相談した。今年度は給食中に20分程度寝たことはあったが、数回程度であった。
- ・来年度に修学旅行を控えている。

- ・朝の運動の他に昼からもウォーキングタイムを設け、できるだけ体を動かす機会を増やして適度に疲れさせるようにしている
- ・睡眠薬を服用し他の児童と同室で就寝したが、特に問題はなく、翌日の活動への影響もなかった。
- ・日中の活動を十分に行い、就寝前は精神的に落ち着く環境にすることを配慮する

宿泊学習1泊目はなかなか眠れなかったのですが、宿泊施設の中を散歩し、本人の気になるところを解決して部屋に戻りました。2泊目は寝なくてもOKという気持ちで接したためか本人はイライラせず過ごせたようです。教員が先に眠ってしまっても部屋を出たりすることはありませんでした。

疲れているような時は休養を取りながら学習活動を行った。
生活リズムの戻し方については特に配慮はしませんでした。
宿泊学習については、普段保護者が行っているやり方に近い方法で対処した(添い寝など)

連絡帳で前日の睡眠時間等の情報交換をして、体調を見ながらその日の就寝に影響しないように適度な休息をとっている。

【質問5】行動特性(水が好きなど)を逆手にとって上手く指導できた経験

本児の場合、何かをはがすことや制作活動が好きなので、シールをもうらうこと、政策の材料道具をもうらうことをはげみに、座って待つなど学習態度や移動についてうまくできることが多くなった。同症候群の他児のケースではあるが、水が好きなので、水道を目的地にして、歩行の練習をおこなったところ、意欲的に歩くようになり、独歩ができるようになった。

プールが好きで楽しめる。

他人との関わりを持ちたがるという点で、「好きな先生を追いかけて歩こう」などとことばかけし、朝のトレーニングではいっぱい歩くことが出来ています。本児の指導とは関係有りませんが、授業に対し前向き意欲的に参加するので、他児の興味、関心をもちやすくムードメーカーになってくれています。

- ・冬場の水はさわり田柄直野で一概に言えない。
- ・水をとばすのがすき、水を怖がらない。→プール指導がしやすい。

水が好きなので、水泳指導は楽しめた。水の中を歩いたり、台に乗ったり、体を浮かせたりして、全身運動がしっかりとできた。音楽が好きなので、音楽会ではマラカスを持たせ、曲を聴いて楽しく振らせることができた。

興味のあることで誘いをかけると常に我慢したり、がんばったり、じゅんばんを待ったりと有効です。

- ・他傷は人をたたく程度です。その都度話して聞かせています。
- ・介助歩行中、急に体の向きを変えたり、つかまり立ちの時バランスを崩す時がありますが、目を離さないようにしています。

パズル、木工用ボンドをはがすetcいくつかの好きな事をやらせてもらうために、他のこともよくがんばるということはある。

特にありません。

特にありません。

にじみ絵や、フィンガーペインティング(食緑で色つけ)はとても楽しそうにやっていました。

- ・水が好きなので、“牛乳パック係”をやってもらっている。牛乳パックをひらき、水ですすぐのですが、自ら積極的に行う事ができる。はじめは、なかなか終わりに出来なかったが、“1回ジャーでおしまい”など、決まりを作ったり、タイマーを使ったりする事で、終わりに出来る。
- ・友達や人との関わりが大好きなので「〇〇ちゃんを〇〇へ連れて行って」などの御願いをすると、すすんで面倒を見てくれる。また“配り係”などもやってくれる。

- ・水や洗剤の泡が好きなので、冬季以外は、給食トレーを洗う係(教員が汚れを落とした物をすすぐ)、洗剤のついたスポンジを洗う事を行った。

特にない

- ・本人が好きなのを教材として使用する。例えば、手に絵の具をつけて、ビニール素材のものに触って絵を描いたり、スポンジたわしを使って色を塗ったりする。また、歩行練習においては、好きな物を目指して歩き、意欲を高める。

- ・場面、場面においておきまりの歌を歌う事で、次の行動にスムーズに向かわせる事ができた。(トイレ、下校など)。

・友達の発表などをしっかりみてくれて、それに対して喜んだり拍手したりしてくれるので、お互いに認め合ういい雰囲気をつくってくれている。
・ペットボトルや缶などに中を入れて音がしたり、振って音が鳴ったりするものを好み、手指の操作や、目と手の協応をねらいとした教材に取り入れている。
・とにかく、人が大好き。一人では怖がってしまう段差がある廊下や畑へのでこぼこ道なども、行く先に友達がいることで進みたい意欲を持てる。

・特にないが、水に触れさせると、興奮が治まる事もあった。
・水を好むが手で触ること、音・感触を楽しんでいる。
・顔に水がつくことは嫌がる。

・意図的にそのような働きかけを行った事はありません。
・不穏気味な時は、音のなる(カシャカシャ)袋を渡すと落ち着く事があります。
(特に水が好きとは思えませんが、入浴時やプールの時などは、洗面器などで、水をくんで遊びます(楽しそうです)母)

魚釣りに出かけ、釣った魚をビニールプールにはなし観察をした。大好きな水の中に泳ぐ魚に気付き目で追いかけ、手を伸ばし魚と関わる事を学んだ。そざいの取り組みで、スポンジボールに絵の具をしみこませたものを手で持って台紙に描くという取り組みをした。導入の段階から注目し、児童の活動の場面でもスポンジボールを手にして笑顔いっぱい長い間、集中が途切れることなく課題に向く事ができた。その他、興味有るそざいを使って、外界に働きかけるという取り組みを行っている。楽しい活動を積み重ねる中で、期待感や成就感をたっぷりと味わい、集中して見る事ができるようになってきた。活動に流れがわかると期待して、積極的に前に出てやりたい気持ちを伝えるようになってきている。友達の様子もよく見ることが多くなった。

・話を聞くのは好きで、活動にも見通しをもてると落ち着いて取り組めるので、意欲を大切に、本人に分かる伝え方を大切にしている。

雑誌(コロコロコミック)やアニメのビデオを準備して、気持ちの安定を図った事がある。

「トイレの後に、手を洗う」時は堂々と水に触れる(!?)とわかりトイレに行きたくなったら(水に触りたくなったら)トイレ用の袋やおムツをロッカーから取り出したり、トイレの写真カードをもってきて、訴えたりするようになりました。最初は股間をたたいて、訴えて居たのですが、その都度、トイレ用袋や写真カードを示して、本児の意志や要求を確認して連れて行くようにしました。子の力は、他の生活場面にも般化し「〇〇をしたら～」という考え方が分かってきたようです。

水に興味や関心を持つ事で、係活動の植物栽培の水やりを担当し、活動を意欲的に取り組む事が出来た。

おフロでタオル等で洗うことができる。

夏期のプール学習については、水に対する抵抗がなく、むしろ大好きだったので、本人も楽しめたのではないかと思います。ただ、水中に潜る時に、口をあいていて、水を飲んでしまったので注意していたという記憶があります。

手洗いする時は、水道でしっかり洗わせるなど。

水が好きな傾向はあるが、特にプールでの水泳であり、食前やトイレの後の手洗いは逆に嫌がることがある。プールが大好きで、プールに行く時に自分で車椅子をこがせると意気揚々とこいで移動できたということがあった。

作業学習に置いて、焼いた木材をたわしで洗うという作業に取り組みました。水を嫌がらない為、集中できる時間が長く、興味をもって取り組むことが出来ました。

次の行動に移りにくい時、追いかけることが好きな特性を利用し、先生が前を走り移動することができた。

水泳指導においては、水中歩行が沢山出来、運動効果はあったと思います。
特になし
<ul style="list-style-type: none"> ・特にありません。 ・学校の中では、歩行訓練でも廊下にある洗い場などには行かないようにしたり、教室内の洗面台はつかわないようにするなど、水の方へ行かないようにしています。
<ul style="list-style-type: none"> ・手元や目標にしたいところに、好きな物(キラキラシール、キャラクターの絵)を貼ることで、手元をよく見て活動できたり、目標に向かって進んだり、運んだりすることが出来た。
<p>感触遊びが好きなので、感触遊びの要素が強い制作活動を設定する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・以前は水遊びがすきで、水あそびをしたくて、水屋(コップを重ねたりする)に行くことがあった。しかし、今は水を飲みに行く時に水屋に行くが変わっている。 ・トイレでも自分でレバーを押して、水を流すことがあったが、今はなくなった。 <p>生活の中で近くに水屋があると、蛇口をひねることがあるが(減ってきてはいるが)、教師が蛇口をひねらないように手で止めたり、水が出ないと思うとしばらくしてあきらめて特にこだわらないようだ。</p>
<p>具体的にはないが、本人の興味を引く教材を用意すること。それにつきて思う。</p>
<p>水が好き→水を飲む事が好きな様でした。水分補給としての飲まれる時と、自分の気持ちを落ち着かせるために飲まれる時と、2通りあったようです。次の行動に移る為の儀式的様に飲まれている事もありました。水分量の過剰摂取による心臓に負担がかかる程の量を取られるという事はありません。</p>
<p>本生徒は基本的に人が好きで、沢山の人と関われる事を好みます。朝の体力作りの時間は、好きな先生が走っているのでそちらを意識して歩く事を嫌がりません。ですから日課を変更してでも歩く時間にしていきます。この時間は個人で歩く時よりも1周(400m)は多く歩く事が出来ます。ちょっとした取り組みですが、食事指導も含め、4月から約5kg体重を減らす事が出来ました。</p>
<p>歯磨きを嫌がる時、「終わってから遊ぶ」「終わらないと遊べない」などという磨かせる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・授業では声を出して喜ぶ事が多いので、他の児童にも刺激になるように盛り上げ役になってもらっています。 ・お気に入りのおもちゃへの執着があるので、それを励みに補講の練習や階段の登りをがんばって進む事が出来た。本人の目の前に提示して、それを目標にしながら進んでいる。
<ul style="list-style-type: none"> ・電車の本が大好きなので、高い位置から紐でつるした本を膝立ち姿勢や、背伸び施肥性で見させる事により、課題となっている腰の力を上手に使う上体を起こし保持する練習や、背中から腰、膝の伸展動作の入力運動に長時間取り組む事ができた。 ・日々繰り返しの練習への取り組みに対しても、係わり手に対して日々新鮮な態度で接してくれるので、本人との良好な関係を保つ事で困難な課題に対しても根気強く取り組んでいけるととても良い面がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い等に拒否することなく取り組めた。 ・図工、調理の洗い物等手伝いは、いたずらが入り指導としては中途半端だった。
<p>ビデオや写真が好きなので行事の事前事後学習に取り入れ、本人も楽しめた。</p>

プールでの指導の際、ライフジャケットを使用。プール内を自力で歩けた。より楽しめる様になった。

(ガムテープが好き、こだわる)

生理の時のナプキンや下着(ブラジャー)が気になり、とりはずぞそうとした時に、ガムテープをまらめてボール大にしたものを渡し、気持ちをそちらに向かわせました。

(追いかけて遊ぶことが好き)

気持ちが向かず、次の活動場所に移動しないようなとき、「まて、まてー」と言って追いかけると、走って移動する。

プールまで手すりをもってつたい歩きをした。

- ・水風船研究大好き(感触、水を入れる楽しさ)
- ・プール学習で活動量、満足度、リラックス度、最高です。
- ・手の温泉(冬は暖かいお湯にハーブを入れて)ハンドエステ
- ・画用紙をぬらす、ぬらし絵(そこに絵の具がにじむのを楽しむ)

水が好きで夏場は水遊びやプールの活動を積極的に取り入れた。

お手伝い活動や水遊び、プールなど十分にやらせてあげたいと思いますが特別ありません。

・水が好き・・・プールでの学習を充分楽しめた。

・ビニール系が好き・・・クリアファイルなども好きなので、健康観察カードを持ってきたり、かばんの中の道具を取り出したりなど楽しんで行うことができた。また、3年生の修了証をもらう代表になり、校長からクリアファイルに入った修了証を上手に受け取ることもできた。

感触遊びが好き・・・そざい学習の中で、粉、小麦粘土、小麦粉のり等様々な素材にたくさん関わり楽しんだ。また、クッキーの生地作りでは生地をビニールに入れることで、そのビニールを上手に門で楽しみながら良い生地を作ることもできた。

- ・水分摂取では遊びが入りやすい。食事が好きなので、食事の時に水分を摂取すると、うまくだむことができる
- ・水泳は楽しく取り組むことができる
- ・本人の興味の引く物を使って歩行訓練などの取り組み

作業学習で再生和紙作りを行う際、ペットボトルに水を入れて振ることが大好きなので教師の補助なしでも主体的に取り組める。

・プールが大好き。浮き輪でチャップチャップ浮いていることが一番。教師と手をつないで歩くことをたのしめるようになったので、タイミングをねらって輪ぐりをした。

・手を上げるのがいや。風船が大好き。いろいろな色の風船をふくらませ、選択干しハンガーにとめてちょうど手を挙げてても届かない高さに吊り下げると、「つかみたい」「とりたい」と手を伸ばして楽しむ様になった。

・上体の反り返りを矯正するために、湾曲した状態の姿勢を保たせる為、水桶を座らせた椅子の前に置き、水遊びをとおして姿勢の矯正に利用した。

・調理でのお皿洗いや作業学習での紙すき(水の中で紙をほぐす)での活動に興味をもって取り組むことができた。

・テーブル拭き活動の後には水洗いがあることでの仕事への興味付けなど。

・前述の作業学習でペットボトル内に水と色紙を入れ振る作業は興味を持って行うことができました。

・絵の具を使うのは、筆洗いがすきである。かたづけ(パレット洗い)水替えなども、自分からやろうとする。
・花壇、畑のみずやり活動がすきである。
・プールが大好きで、体を浮かすことや手をもつと足のバタ足が喜んでできる。

教室では特に水遊びをしない。声かけでうでまくりをして手洗いができる。調理の時の皿洗いや、そうじの時のぞうきん洗いは好きで、自分からやりたがる。

個人的にだと思いますが、何事にも積極的に取り組みます。その点を利用し、
・グループ別学習時に、班長という役を与えた所非常によいリーダーシップをとることができました。
・ランニングでは、「タイムトライアル」を年に3回行っており、毎回新記録を出しました。最後には8位に入賞しました。「すごい！速い！」などの励ましが無効でした。

機嫌を損ねた時の対応として、大好きなビニールや絵本を見せることで気持ちを高揚させ、その後の活動がスムーズに行えることは多い。また、活動から活動への気持ちの切り替えがうまくできない場合も、ビニールを見せつつ車いすに誘うなどの方法で気持ちを切り替えることが出来る場面が多い。

・人が好きで興味をとってもてること、また模倣ができ記憶力もすぐれていることで、図工の作業や音楽の合奏など見本の教員をよく見て、同じに自分から動くことができる。
・図工などで作業工程の中に興味をもてり物を1つ入れ、ひとしきり遊ぶ時間を入れた。満足し切り替えも出来、長い時間も集中して取り組めた。

水道周りの掃除をやってもらっている。大好きな仕事になっていて、自分からやりたいサインを出して積極的にやっている。どの活動より集中してやれるので目が離せる。

体温調整が難しく、夏場は水分補給をまめにする(水やお茶等はこぼすことが多く、飲みづらい)が顔を真っ赤にして過ごすことが多い。大好きな水遊びでは進んでプールに入っていき、上昇した体温を下げて快適に過ごすことができた。

「〇〇が終わったら、水で遊ぼうね。プールで遊ぼうね。」を理解し、困難な課題で集中してやることができる。水が好きな為に、水で濡らしたぬれ雑巾も好きで、教室の雑巾がけに喜んで取り組むことができる。教師が楽しそうに一緒にやることでさらに効果が上がる。

教材は多くは、本人の関心に基づいて選ぶ。平面からの「立ち上がり」などは、バスなど好きな目的がはっきりしている時に取り組んだ。また、パソコンも行動(操作)した結果に好きな画像や音が出る様に自作したりした。

①「メダルがほしい」(何か早く手にしたい)という気持ちが非常に強い為、ゲームなどこれまでは待ちきれない時も、ガマンして待てる場所が増えた。
②「役割意識がてても強い」ので(ほめてもらいたい気持ちが強い)クラスでの係の仕事や給食のかご運びなど、他の子どもたちが嫌がりそうなことも意欲的に頑張っている。

・ペットボトルの中に水を入れさせ、洗面台で中の水をあげさせていりした。

野菜の水やり当番を一学期は頑張れた。

水が大好きなので食器や道具と一緒に洗ったり、絵の具などの感触が好きなので手に絵の具をつけてダイナミックな作品を描いた時には、楽しみながら活動している。

・プール学習で帽子をすぐに脱いでしまう為、脱いたらプールサイドに上がらなければならぬようにしていた。入りたいので、脱ぐ回数は減った。
・新しいおもちゃなどを強化子に、気が散りがちで取り組みに時間がかかる朝の活動をサッサと自らすることが出来る。
・「上手〜！」と派手にしっかりほめられるのが大好きなので、(スキンシップなども)それをしてもらえるようにがんばれることもある。

帽子をかぶるのが嫌だが水泳学習は大好きなので、スイミングキャップは必ずかぶらなくてはならないと言葉がけをし、かぶっているのを忘れてしまうほどおおいに楽しみました。

トイレの指導で周囲が気になってしまう時「一成くんはかしこい、かしこい」と声をかけることで成功することが多くなります。しかし、これは行動を逆手にとっている訳ではありません。本児の理解している言葉や出来ることを理解した上で指導につなげているだけです。

風船はわれるのも全く恐がらず好きです。よく追視するので箱に隠す瞬間を見逃しません。短時間の勝負であれば、二つの箱のどちらに隠したのか当てる事が出来ます。引っ張る、破ることが好きなので、敢えて小さい破れ目などを提示しても器用に指先でつまんで引っ張ります。小さな穴から何かを覗かせると注視して指で摘もうと必死になることもあります。紙ちぎりも好きで、20分程度取り組めることがあります。水などは勿論好きで、プールでは全く恐がらずに活動できますし、頭の上からのシャワーも大丈夫です。

夏場などは、水遊びをたくさんして、目を覚まさせたり、道具で遊んだり(手のうごき)mやりたいことを伝達(要求)するなど、いろいろな意味での良い学習になっています。

美術のコラージュの課題では「ちぎる」作業が気に入り集中して長時間材料をちぎることができた。(やぶることが好き)

ビデオやテレビは好きで行事や活動の事前が学習でプレゼンテーションソフトをテレビでうつし、学習すると集中でき、効果的に活動できる。
他の児童と同じ活動をするのが好きなので、友達を隣り合ったり向かい合って同じ課題に取り組むことで集中して活動できる。
一日のうち好きな活動をとても楽しみにするため、大好きなエアートランポリンの活動前に清掃活動を設定し、毎週行うことで、声を掛けられなくても清掃をはじめたり、机を動かすことを手伝うことができる。

楠間椅子などタイヤが大好きなので、車椅子を目指して肘這いやウオーカ歩行で進む意欲とした。

・なんでも物を入れたり、詰めたりすることが好きなので、ペットボトルのふたをラップの芯の中に入れる教材を作製したところ、上から入れて下から受け、また入れるを繰り返す机上でかなり長い時間集中して遊ぶようになり、型はめなどの教材にひろがっていった。

本児が好んで遊べる物や場をいくつか用意してあり、遊び込みながら自分で切り上げたり次の活動に向かって行ったりしている。その中で遊び方を工夫している様子が多々見られる。・大人がしていることや、友だちの活動をとても良く見ている。そこで、遊び方や変化のおもしろさをじっくり示すことで、仕組みや手順に興味を持ってとらえている。…
…①透明、半透明の物越しに見たり、変化をとらえたりして楽しめる力があるので容器やボード越しに楽しむ活動を展開している。②ボールなど転がる物の変化を楽しめる力があるので、ボールを掴んで出し入れできる箱や容器、傾けると中のボールが転がりその変化を楽しめるおもちゃなどを作製し、それらを介してのやり取りを膨らませている。

【質問6】摂食指導の工夫と課題

1. 咀嚼、嚥下等の口腔機能面

- ・大きな物は、小分けにする。
- ・「よくかんで」などと声掛けする。

咀嚼etcは上手になってきましたが、麺類やパンなどは勢いよく食べ、つまりやすいので、短くきつたり、小さくしたりしています。パンは口に詰め込みすぎるので、少しずつ口に入れられるよう気をつけています。

工夫・・・大きな食べ物は小さく切っておく。食事では前掛けを。普段はリストバンドをして「口をふいて」と声をかけて自分でふかせる。
課題・・・小さく切った物をわしづかみにして食べたり、飲み込む前にさらに口に押し込んだりする。自分で気づいてよごれや食べこぼしをふくことができない。

食べ物は食べやすい大きさに切る。しかし咀嚼の練習も必要なので大きさは様子をみながら切っている。よくかむような言葉かけを常にする。

一口ずつゆっくり、かませるようにしています。

よだれなどは出るが、自分でふくことはできる。食べる事に興味あるので、特に問題はないが、きれいに食べる事が難しく、多少こぼしてしまう。

きざみ食

教師が常に側で食事を一緒にしているので、ゆっくり咀嚼するようにと時折声掛けをしています。

よくかんで飲めるようになっていきます。

- ・固い食べ物や大きな食べ物は一口ぐらいの大きさに切ってあげるようにしている。
- ・楽しさや満足感を感じることができるよう十分に咀嚼にして、最低20分はかけて食べるように心がけている。

あまりかまない傾向があるので、歯の上に食べ物を載せるようにする。

嚙んだり、飲み込んだりする事には大きな問題はない。

- ・おかずは一口大の刻み食にしている。
- ・スプーンを使って水分を摂る事で、口唇の閉鎖、口腔内の水分を貯留させる。水分を飲み込む等の動作を身に付けることが出来るようにしている。

・食べ物を噛みちぎらせる事で、口を閉じて咀嚼を行うようにさせている。
姿勢をただす事で、スムーズな嚥下ができるようにしている。

食べやすい大きさ(一口大)に切る。ごはんは一口大に球状にまるめる。

- ・ゆっくりかむ。少量ずつ口に運ぶよう指導している。

良好でした。

- ・取り込み可能
- ・水分誤嚥危険性があるため、水分摂取はゼリーで行っている。
- ・食事中にムセが見られるため、見守りが必要

普通食を食べている。極端に大きい物や硬いもの、麺類は調理ばさみで一口大にしている。大きいな固形物は舌で左右に押しやり、奥歯で噛みくだいている。また、柔らかい物は、何回か咀嚼した上で、嚥下している。水分はストローで摂りこむことができる。

- ・食べやすい大きさに切るようにしている。
- ・たくさん声を出す場面を増やす。
- ・身体面で、全身の筋力をつけていく、あごや首を使った運動をしたり、身体の使い方を知っていく。

スープを飲む時、教師がお椀を支えるが、汁が気管に入ってむせてしまう場合がある。

課題：嚥で、丸めて、飲み込みのが難しい。自分でスプーンですくって食べられるようになったが、丸のみ傾向がUPした。工夫：歯科のDr、OTの助言を得て、口腔周辺のマッサージをする。噛みづらい、飲み込みづらい物はみじんにきざみ、とろみあんをからめて、一口ずつ介護者が食べさせる。汁物はスプーンからすすらせる。

- ・口唇による取り込みが不安定なので、唇を閉じる事やよそを見ないように促しながら支援を行う。
- ・奥歯での咀嚼は安定しているので、適当な大きさの食べ物を適量スプーンに乗せ、位置や取り込む角度に注意して支援を行う。

基本的には丸のみだが、リンゴ等の固い物は、かんで食べることができる。水分はコップでもストローでも呑むことが可能。

良く噛まずに呑んでいたので、大きな物はいくつかに分けてお皿に盛っていたと思います。一度に丸ごと口に入れることもあったので。

食べにくそうなものは、小さくしておく。

咀嚼等の機能には問題はみられない。かみ切るとは難しいので、一口大にカットしている。ご飯はおにぎり状にして与え、前歯でかみとる練習をしている(ただ、自分でもっとつぶしてしまうので、こちらがおにぎりを持って食べさせている。)。水分(コップから)はこぼしてしまうので下あごを押さえながら行っている。

ストローが好きだったが、何でもストローで吸いたがるので、わざとコップについて使用をやめた。食べる視hせいも前かがみになりがちなので背筋や首が丸まらないように支えたり、言葉掛けをしたりしている。

全部飲み込んでから次に口に入れる。適切な量を口に入れる。

移行期なので普通食を少しだけ細かくし、食べさせるようにしている。おつゆ、スープはトロミアップを使い飲みやすくしている(一度に飲むとむせるので、少量ずつコップに入れて飲ませるようにしている)

咀嚼、嚥下についての機能面については特に問題が無く、誤嚥もまったく見られない。ただ、食事の時に食べ物を噛む回数が少なく、すぐに飲み込んでしまおうとするので、できるだけゆっくり噛んで食べられるように介助を行っている。(刻み方やペース配分を工夫)

本児は口腔機能面において、特に大きな問題は有りませんでした。

水分摂取の際に少しむせることがあるので、一度に飲まないように気をつける。
咀嚼不十分に飲み込んでしまうことがあるので、しっかり咀嚼することが課題

かみ合わせが悪いので、咀嚼は下手である。丸のみで給食も食べる。給食は一口にハサミで刻み必ず口の中が無くなってから次を食べた。

・普通食
・汁物は具と一緒に飲むとむせるので、別々に食べています。

・普通食を2cmに切った物を7・8回咀嚼して食べている。咀嚼が少ない時には、教師がはしで臼歯に食べ物をのせ、咀嚼を促している。
・水分はコップのはしをつかんで飲む。コップが奥まで入らないように介助している。また、オトガン部を軽くとめることで、両唇を合わせて嚥下できる。

口に入れて咀嚼しやすい大きさに食材を切っている。あまり細かくても噛みにくいので、適切な大きさに配慮している。口腔内の過敏があり、ざらざらした触感のものなどは、口から手に出して確認作業のようなことをする。

良く噛んで食べるという意識が無く、全く噛まない事はありませんが、殆どあまり噛まずに飲んでしまう傾向がありました。その為、満腹感が感じられず、沢山食べ物を食べられるのではないかと考えられます。

咀嚼は舌で前に押し出す様にながら行っています。固い物でもそれなりにかんで食べているので、すくいやすい大きさにカットする程度です。麺類、パンは丸呑みが多いので大きめに切っています。

詰め込む様に食べるので、一口大にしたり、少量ずつにしたりしている。

・一口量にあうスプーンを使用。なるべく一口小に切った物を食べる。調子が良い時は、食いちぎりやすくパンをカットした物を食べる。
・丸呑みして食べる傾向。口から食べ物をこぼすことがある。

・咀嚼が弱く丸飲みになってしまうので、食べ物の大きさや一口分の量を少なめにするなどし口の中で固まりやすいパンなどは水分を含ませるなどして、配慮した。

一口で摂取できる量をスプーンにとる。

・練り製品、球状の物(ミニトマトなど)は一口大に切る。今のところ、コッペパンも一口大にしているが、量を考えてかみ切れる様にしたい。

咀嚼、嚥下ともできているので、特に工夫と課題はありません。

・あまり噛まずに丸呑みしていることが多い。

あまり大きかったり、堅い物はカットして一口サイズで食べられる様にする。

唇がとじれるように支援することがあります
噛む力(かみとりの力)はやや弱い→パンや肉など、大きいまま、噛む様な場面を作った咀嚼は上手におこなっている。水分は少しずつ。すすりのみはあまり得意ではないのでスプーンのみを少しずつ行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・はき出して遊ぼうとすることがあるが、しっかり唇を閉じさせ嚥下させる。 ・咀嚼が上手にできず、丸飲みになることがある ・水分摂取が苦手なため、食事と一緒に摂取。
殆ど噛まずに丸呑みなので、肉、魚等は刻み食。お茶をよく飲ませる。
<ul style="list-style-type: none"> ・一口量をスプーンにすくえるよう、介助食器に取り分けている。噛みながら「もっとちょうだい」とスプーンを振ったり、担任の手をつかんだりして、要求するので、「よく噛んで」「ゆっくり、食べます」「まだ、お皿にあります」などと声かけをして個別について全面介助しながら食べさせている。
<ul style="list-style-type: none"> ・早食いにならずゆっくりと食べています。 ・時間があれば、好き嫌い無く全量食べることができます。 ・以前は、食べ物をハサミで小さく切っていましたが、食べ物を噛むようになり、今では、スプーンに捕りやすくする為の大きさにハサミを入れる状態になっています。飲み込む時間も問題なく行えています。 ・味噌汁を飲む時、むせてしまうことがあります。 ・牛乳はストローで飲んだり、コップで飲んだします。むせることはありません。
大皿での食事は一口が大きく、咀嚼が十分に行えず飲み込んでしまうので、小さい変形皿を使用し食べさせています。また次々と口へ運んでしまうので、声かけで口に運ぶペースをゆっくりになるように指導しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物を小さく切る ・自分用のスプーン・フォークを使う。
適度な固さの物は咀嚼することができるが、食塊形成には至っていない。汁物については口唇が閉じきっておらず、口唇両端よりこぼれ出してしまう。舌突出等があり、よだれが多い。牛乳等の摂取はとろみをつける。形態は後期食が適当。現在は後期食、普通食を併用して摂食指導を行っている。
特にしていませんが、はさみを使って荒くきざんでいます。咀嚼、嚥下ともに問題があります。
閉鎖が課題であり、特に水分摂取の際に上唇を閉じる様に指で動きを促している。時々、上唇を動かして口唇閉鎖を実現できている。
口に入った量によってむせることはあるが、口腔機能面について支障はない。歯磨き等の口腔内刺激への過敏は」ある。
一度に口の中に食べ物が大量(少量でもある)に入ると、うまくかんだり、飲み込んだり出来ずに、オエツとなる。大きい物ははさみで小さく切り、口の中に入る量を制限しているが口腔機能面は十分とは言えない。

見本を見せながら、色々に試してみたが、思うように効果は上らず、丸呑み状態である。繰り返し指導を試みると、嫌がって食事そのものを拒否する。

・「クチャクチャ」と口を大きく動かして食べる為、食べこぼしがあったが、最近是非常に食べこぼしが減った。
・舌の突出もあるためかよだれが多くなる。

特にありません。

牛乳やみそ汁などの水分を飲む時、あごを上げて飲むせいかむせてしまう。声かけで下を向いて飲む様に支援している。

何でもよく食べるが、よく咀嚼はしていないような感じがある。

咀嚼については、食材を一口サイズに切って食べやすいようにしている。水分をストロー等で吸うことができないので、小学部の時はチューブを使って摂取していたが、チューブを噛んだり、容器を押し出して飲んでいたりと機能の向上が期待できなかったため、中学部では、吸ってのむのではなく、コップを使って水分補給する練習に切り替えている。

舌で口蓋に押し当てて、つぶして食べることが多い、少し奥歯をつかうようになってきた。嚥下の力が少し弱く、えずく事も多いが、食物形態がきざみや一口大であるのでつまる事もない。

すくいやすさ、かみ切ることができないことから大きな物は一口大にカットしている。麺類も上手に1本分すすって口に入れられるが必ずオエツとなるので1/2~1/3の長さにカットしている。具のない知るなどはむせやすいのでコップや椀少しずつ飲めるように量を調節している。

食べずらく、飲み込むと危険だと思われる食べ物は小さく切り分けて与えました。「よくカミカミね」と言葉をかけました。

特に大きな問題はありますが、あまり大きなものはカットしています。また、小さくても白玉だんごのように一口で食べた時、危険なものはカットしています。

・歯ブラシの仕上げみがきを時間をかけて行った。他のお子さんから実施することで「自分もやりたい」と思ってくれました。

舌の動きがなめらかでなく、口奥に入れようとして出してしまうことがある。お茶、水分補給では急いで飲もうとしてむせるのでコップの角度を調節する必要がある。

・咀嚼に関しては、前歯で噛みとること、形態食(中期食)にして舌の動きを出すことを行っています。
・水分に関しては一口量を介助して加減しています。

大きなものは小さくして食べやすくしている。

おかずはあらかじめ一口大にしておき、汁物は具と汁に分けて食べた。汁のおわんは軽めのもので両手でもって少量ずつ分けて飲んでいた。

水分をコップ等で飲む時に舌を出してしまい、唇をすぼめて食器に当てる事が難しい為少量ずつ飲む練習をしている。

あまり噛まずに飲み込む傾向があるので固いものは一口大に切る

食べ物は調理はさみで一口大に切って食べさせている。固いものなどは、刻みにしている

【質問6】摂食指導の工夫と課題

2. 姿勢や上肢、指の使い方などの動作機能面

スプーン、フォークを使い自分で食べる事が出来るため、特殊食器を使って、スプーンで食べ物をすくい、食べている。

・姿勢、上肢に問題はないが、指の使い方はやや、巧緻性に欠ける。

食べる姿勢はいいです。スプーンやフォークをにぎるやすいように柄にスポンジをまき太くしてあります。上から握っていますが、力が入りづらいので、フォークで少し固い物をさすのが、苦手ですが「食べる」という意識が強いので、取り組む意欲も強いです。

・姿勢や上肢・・・矯正用のいす、机。
・指の使い方など・・・日常生活行動の中で。

工夫・・・日常生活や作業的な学習で、上肢や指を使い、目と手の協応を促す学習を行う。
課題・・・定着がゆっくりで、なかなか日常生活の動作環境の向上に結びつかない。

家でのやり方を伝えてもらい、同じようにおこなっている。

・側齧があるので、いす座面左と同じく車椅子にもスポンジをいれています。
・握る(親指と他の指を合わせて使う)ことが、不十分なので、ボール(大)→ビー玉(小)、スプーンケース、日常手で使う物遊ぶ物に握る、つまむ練習になる活動をたくさん取り入れています。

握るからつまむができるようになり、いろいろな細かい作業が(ストローをさす、あける、むくetc)が時間がかかるが出来るようになってきている。

・動作方で矯正
・歩行にて

箸を使用して食事可能ですが、高等部が食事をする時間が限られているため、スプーンを使用して食事をしていません。お椀や皿などを片手に持ち、上手にスプーンを使用して食事をする事ができています。時々、皿からおかずをこぼしてしまうことがあるので、テーブルと椅子との距離を調節したり、皿を傾けすぎないように教師が手をそえるなどしています。

叩く力が強いので、クラフトパンチをはさむ形で補助具を作ったところ、意欲的にやっていた。また、スイッチが好きなので、ミキサーを入れたりタイマーをスタートさせたり、止めたりなど上手に人差し指でやっている。課題としては、ちょっと眼を離すと危ないため、ダブルのスイッチで行っている。

姿勢が安定しないと、目標物をしっかりととらえられないので、姿勢を安定させるため、座位保持椅子を使用して食事をしている。先割れスプーンの柄に食べ物をのせて、右手で握り口まで自分で運び、スプーンを抜く事ができている。

・食器が滑らないように滑り止めシートを使っている。
・食器の持ち方はその都度、具体的な持ち方を示している。

・お尻が前の方に出てきてしまう(自然に)ので、正しい姿勢で食べられるようにしている。(こぼしたり、衣服が汚れてしまうことも増してしまうため)。
・スプーンですくって食べるが、ずいぶんとこぼさないように食べられるようになってきている。

・本人から手が出る時には、スプーンを持った教師の手を動かして、口までもっていくことから始める。

・様々な形のものを自分で持たせるようにしている。(マグカップ、段ボール、食器、かご、たいこ、タンバリンなど)

・持ち手の太い口に運び易い形(角度)のスプーンを使ってできるだけ自分一人で食べられるよう。介助しない時間をはじめてにとっている。
・スプーンにのせた状態で手に持たせる。
・左手を机上におき、姿勢を安定させる。

現在、全介助だが長いスパンで計画的に自分で食べる目標に向けて取り組んでも良いと思う。

・プレートが入っている為、転倒の危険がある。
・上肢は直立状態
・積み木やはめ板は可能
・親指と人差し指で物をつまむことが可能

・椅子座位による前方介助
スプーン、小さくちぎったパンなど教員に手で支えられながら口に持って行く事ができるが、ほとんどの場合、口に運ばせた物を食べるという状況
・食器を手に持って食べる事になれる
・ゆっくり、無理なく噛んで食べる
・フォークやスプーンなど、食具を手に持って食べる事に慣れる。

・姿勢が傾きやすいので、声をかけたり補助したりする。
・食器を持てるようになったので、持って食べるように声をかけている。
・個別の時間を設定し、指を使って目と手の協応動作力を高めていく。

給食の場面では、スプーンは通常のスプーンを使用している。容器については、介助食器で一方がすくいやすいようにできている容器を使用している。一人でおかずをすくって食べる事ができる。ただし、スプーンを持つ向きを教師を支援する必要がある。

猫背になりがちなので、ヒジ付き児童イス使用。ずりおちないように滑り止めシート座面に敷いている。

姿勢: そわそわと良く動くので、幼児用のイス(両そでと足置き台がある)を用い、身体をできるだけ固定しやすいようにする。
指: 本児は自分ですくいたいという意欲が高いので、プラスチック製のすくいやすいスプーン(市販の介護用品)を使っている。学習面で注意集中が出来るようになってから、手元をよく見てすくうようになった。

・低緊張、姿勢の保持時に体が右に傾く。背もたれのない椅子に座る時は、後方に転倒するおそれがある。
・音楽を聴いて体を動かす時に、上半身を小刻みに動かしたり、前後に大きく反復しながら動かすことがある。
・股関節が内側気味で固いため外転しづらいため、適度なマッサージとストレッチが必要。
・手指は同時収縮で母指全体でつまみ、放す。母指対立はなし。
・体幹が不安定で身体の軸が固定されていない。

出来ている為、特別に指導は行っていない。しかし、上肢は前傾にんなりやすい。

スプーンやフォークを使用して上手に食べていたと思います。給食に出たキウイ(丸1個を半分にしたもの)を片手で持って、スプーンで実を上手にほじって(えぐって?)食べることもできていました。(今でもよく覚えています)。

姿勢や上肢の機能には問題ない。手の操作性には介助が必要。スプーンをもつが、離してしまうことが多いので、口元まで一緒に持って介助している。パンは両手で持ち、自分で食べられるようになってきた。一口大に切ったものは手のひらを使って口に押し込むような形で食べている。

姿勢・・・まっすぐになるように言葉かけする。
上肢・・・たいこをバチで叩く時は肘を持って支点にするなど。
指・・・食べる時はスプーンを使う。殴り書きやクラフト的作業をより多くさせる。

自分なりの指の使い方で、できるだけ集中力が持続するように見守る。
<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に肘掛け椅子に座っている。 ・深皿を使用しオストロンで口に運ぶ練習をしている。
<p>(姿勢) 食事の時は特に問題ない姿勢でいる。</p> <p>(指) パンやりんごなどの、手で持って食べるものは、主に左手で持って食べるようにしている。つまむのは親指、人差し指、中指の3本であることが多い。人差し指と親指の協応は、スムーズでは無いができる。</p>
動作に関しては、手先は不器用である為、みかんのへたをとったり、むいたりすることや、パンにジャムを付ける等困難でありましたが、スプーンをしっかりとにぎり上手におかずをすくうことができました。介助なしで食事をすることができました。
2. 姿勢保持の為、プロンボードを使って食事をしている。学校の給食スプーンを正しく使う練習をしている。 (課題)左手で食器を支えることができるようになる。
給食時は車イス、カットテーブルを使用した。姿勢は特に悪くなく、介助スプーンでよく食べた。
右手にスプーンを持たせ、自分で口へ運ばせたが、食物を口に摂り込むとすぐに口を放してしまう。
<ul style="list-style-type: none"> ・オルソーチェア使用 ・スプーンを持って、自分ですくい口に運ぶことができるようにする。そのために、特別食器に好きな物やすくいやすい物一つ入れてスプーンですくう練習をしました。(5口程度)。できるだけ成功体験にしたいので、すくやすいように教師が特別食器を少し動かしたり、2回続けて失敗した時は、一緒に持つなどした。すくうのが一人で出来てきているが、自分一人ですくうとスプーンの面が少し外側に向いて食べる直前に落としたり、食べにくい時があった。
<ul style="list-style-type: none"> ・介助皿、介助スプーン等で一人で食事が出来るように指導している。皿の位置、スプーンの角度等、細かく調整するようにしている。皿の安定及び固定。 ・両手を使うように、左手が体を支えるようにする。声をかける。
児童の体の状態に合わせたイスや机を使用する。
給食のお盆は、本人の正面に置いている。教師は右側からの介助。スプーンですくう時に、肘が上がりやすいので、少し下げないように介助している。親指と他の4本の指で、スプーンを握って教師の柄を支える援助をうけてすくって食べている。
姿勢は車イスにカットテーブルを装着している。食事に必要な時間内に姿勢が崩れることはない。スプーンを使うが、上手くすくえなかったり、めんどうになると手で食べようとする。
箸はまだ使えません。フォークとスプーンを使っての基本的な食事の仕方ですが、物を差す時はフォーク、スープを飲む時はスプーンと行った使い分けが分からずフォークでスープを飲んでいたり(飲もうとしていたり)どんな物でもスプーンのまま食べようとしていたり、まだ使い分けが不十分でした。
食べているとだいに後ろに反り返った状態になってしまうので、前屈みになるように背もたれの無いイスを使用していました。最近では前傾姿勢が身につくつあるので、背もたれのあるイスを使う様になりました。

牛乳やお茶を自分で注いでいるが、あふれるまで注いだりする事がある。ゼリーなど、紙スプーンで食べる事が出来る。
イスに座ると体が後ろに反り返る。イスの(後ろ側)下に3~4Cmの板をしいて傾斜を付ける。カットアウトテーブルを使用して、給食に集中するようにする。しかし、カットアウトテーブルをがたがた揺らして、遊びがちである。持ちやすいスプーンを使用。持ち手が下から持ちやすいように曲がっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・肘置きテーブル活用することにより、上半身の保持とスプーンを持つ手の肘を支店とする動作の安定が図られ食事動作の改善が見られた。 ・スプーンの持ち手を握りやすいよう太くし、縁の高いスプーンですくいやすい皿を用いて介助し自食を促した。
<ul style="list-style-type: none"> ・練習皿を使用(底面がすべりにくい、すくいやすい形状) ・フォークの使用は課題学習にも取り入れ、食事と両方で指導している。
椅子の座り方、姿勢への配慮。
<p>体格に応じた机、椅子の使用。</p> <p>視力(色素)の関係で、パンなどはっきりわかるように黒っぽい器に入れる。(目標物がはっきりするように。手の大きさに応じた、フォーク、スプーンが少ない。</p>
嫌いな食べ物を口元へ近づけると身体ごと横に大きくそらせるので、支援する位置を時々変えました。しかし、偏食が少しずつ少なくなってきたので、この対応は今年度の1学期まででした。スプーンは使えますが、気が向かなかったり、好きな物は手づかみになってしまいます。手首を介してスプーンを口元に運ぶことは難しいので、スプーンを持つ位置で対応しました。
指の使い方・・・自律課題として、はしの使い方(補助具を使い、カットした消しゴムを挟んでトレーへ)
<ul style="list-style-type: none"> ・S字彎曲、股関節が硬い、下肢に比べ上肢に力が入っていることが多い。上肢でバランスを取っている為、多少両肩が上がっている。 ・パチンコ玉を摘んで小さい穴に入れることができるが、指先は上手く使うことが出来ない。
どうしても食材の触覚を確かめながら指でつまんでちよつとずつ食べるので、結果としてのどにつまるような食べ方はしていない。
<p>食べているうちに体が左に傾いてしまう傾向にあるので、注意を要する。左側にクッション、タオル等はさむこともあった。</p> <p>専用のスプーンフォークは上手にもてる。左手で器をおさえることもできる。うまくすくえない時に手づかみも多かった。デザート類など、左手でカップを持ち、スプーンで食べることができた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ふざけて姿勢がわるくならないようにしている ・姿勢が崩れると戻す
背もたれのある椅子、柔らかく太い握りのある特殊スプーン、フォークを使用。
<ul style="list-style-type: none"> ・テーブルとお腹のすきまがどんどん広くなり、こぼしてしまうので、椅子と背中の中にクッションを置いている。姿勢を保つ意味もある。こぼして楽しんでいるようにも思えるので、遊びにならないよう無視をする場合もある。
<ul style="list-style-type: none"> ・専用車椅子を使って姿勢の維持に努めています。また、特殊皿、特殊スプーンを使用して捕りやすくしています。上手に細かな野菜などをすくっています。手首と肘を使い方がまだ上手に出来ない為、口に入るまでの行為でこぼれ落ちてしまうこともあります。スプーンの握りは棒つかみです。その為に肘の上げ下げを意識させて取り組んでいます。 ・コップに入った飲み物を片手でつかみのむことが出来ますが、元に戻し置くことが上手にできず、こぼしてしまうことがあります。 ・牛乳をストローで飲む場合、上手に口からストローを話すことができ、容器から抜き落としてしまうことがあります。その為、別の箇所に穴を小さく開け、そこからストローを差し込んで抜けにくくしています。

<p>変形スプーン(角度はほとんどつけていません)を使用していましたが、手首の使い方が十分でなく徐々に肘が上がってしまうので、手首を使い肘を下げる様に指導しました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・はこいすに座って食事。 ・フォークでつきやすい大きさに切ったり、取りやすい様に皿をかたむけたりする。
<p>姿勢については常時前傾気味。指の巧緻性は低く、細かい動きは困難・</p>
<p>特にしていません。椅子は手置きがある物を使用しています。椅子に座る際にさわらせてから座る様にしています。腕を引っ張る介助は極力させています。</p>
<p>フォークをさすまで手を添えての介助をし、口に運ぶことの練習をしている。</p>
<p>左上肢を屈曲させるため、ほぼ右手でフォークを使用する。(フォークは刺せる物を食べる時のみ)スプーンは持つが手首の動かし方が不十分ですくって食べられない。フォークも握り方、手首の動かし方とも課題があるので柄の部分の形状を変えた物(特注)を使用している。手掴みをしている時もある。ピンチ把握が難しく、わしずかみをするが、食べ物が口に入らず落ちていくことが多い。従って指導者の食事介助が欠かせない。</p>
<p>〈姿勢〉 <ul style="list-style-type: none"> ・コルセットの効果があり、姿勢がよくなっている。 <p>〈指の使い方〉 <ul style="list-style-type: none"> ・フォークを上手にもって、主食を食べられるようになってきている。 ・ある程度の太さのあるペンタイプのクレヨンを使用したことで、嫌がらずにクレヨンを持つようになって、指先の動きが良くなった。 </p> </p>
<ul style="list-style-type: none"> ・まずは好きなヨーグルトなどで取り組み始めた。 ・実践の表1「食事」のとおり。 <p>表1の「食事」の評価にあるように、「自分で食べられる」実感をしっかり持たせることで偏食やマナーの課題は減少した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・特性のスプーン、フォークを使用しているが、握る際にとても力んでいる。うまくすくえなかつたりさせなかつたりすると、手づかみで食べようとする。
<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動でおはじき(ビー玉、コイン)などをつまんだり、つかんだりする活動を取り入れ、指の動きをよくするようにしている。 ・姿勢は昨年、側わんの手術をしたため背中が真っ直ぐになり姿勢がよくなった。 ・フォークからスプーン(底の少し深いもの)に変えて食べ物をすくわせできるだけ、自分で食べさせている。 ・両手を使ってカップを持たせて、みそ汁や牛乳を飲ませている。
<p>豆を手でつまんで食べたり、箸でつまんで食べた。</p>
<p>自分でスプーンを持って口に運ぶ時に、ひじを支えて補助すると、上手に食べることができる。</p>
<p>返しのある平皿を使用して、適量ずつ平皿に盛り、自分でこぼさずに、食べられるようにしている。</p>
<p>日常的に手、腕を動かす時、集中してがんばれば、がんばる程、小刻みにふるえる。指は細かい動き(小さなボタンを指で押ししたり、つまんだり)ができる。</p>
<p>食器に口を近づけることがないのでこぼれやすい(背もたれにもたれ、背中を垂直にたてたまま食べている)口と食器の距離を近づけてみることから始め、背もたれの低いものに変えている。また、すくいやすいように自分専用のグリップ付スプーン、フォークと学校の固定食器を使用し、すくい方を練習している。</p>